

広げよう！優良実践の輪！

～ 令和元年度 優良実践校の取組 ～

取組 1



小中全校合唱

小中一貫教育の充実による 学校づくり

新庄村立新庄中学校区(新庄小中学校)

1 はじめに

新庄小中学校は、昨年4月に「小中一貫教育校」として開校しました。現在、児童・生徒数61名ですが、新庄村は1小1中です。未来の新庄村に貢献できる担い手を「小中一貫教育」、

「学校運営協議会」を通して地域とともに育成しています。

2 取組の概要

(1) 小中「相互乗り入れ授業」

学力向上、きめ細やかな指導、高学年の複式授業解消、滑らかな接続を目的として「相互乗り入れ授業」を行っています。全ての教職員に小中での兼務をかけて中学校教員の専門性を生かし、6年生の算数・外国語をはじめ多くの教科で中学校から小学校へ乗り入れ授業を行っています。児童は今まで以上に興味ある話に惹かれ、意欲や関心をもって授業に取り組むようになりました。また、小学校の担任の先生がTT(ティームティーチング)で入ることによって個別指導

もできるようになり、よりきめ細やかな指導が可能となりました。中学校になっても同じ先生に教えてもらえることで安心感にもつながっています。

また、思考ツールや最新のICT機器なども有効に活用し、学力向上を目指しています。

中学校の教員にとっては小学校教員の授業を見る機会が多くなり、丁寧な授業づくりについて学ぶことができるなどよい刺激になっています。

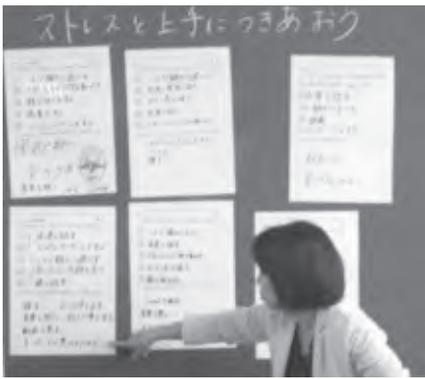
(2) 「ふるさと新庄学」

特色ある教育の一つとして、小学校では生活科と総合的な学習の時間、中学校では総合的な学習の時間に「ふるさと新庄学」を行っています。ねらいは二つあります。一つ目は小中ともにふるさとを愛し誇りに思う気持ちを醸成すること、二つ目は小学校で地域の良さを知ったことを生かし、中学校での課題解決学習を通して探究的な学習へ、そして地域貢献活動へとつなげることです。

3 おわりに

子どもたちは学年が上がるにつれ、自分たちの役割も大きくなり、やりがいを感じることで自己肯定感も上がり、「よりよい学校づくり」をしようという意欲に満ちています。教職員も家庭・地域の方と手を携えてしっかりと支援していきたいです。

(新庄中学校長 柴原克彦)



「サクセスフル・セルフ」の一場面

学力向上及び生徒の 自己肯定感の向上に回った取組

倉敷市立東陽中学校

1 はじめに

本校は干拓地に位置し、交通の便にも恵まれている生徒数約800名の中学校です。自己肯定感が低いという生徒指導にもかかわらず課題を改善しながら、学力向上を目指した研究の概要を紹介します。

2 自己肯定感を高める学び

(1) 「サクセスフル・セルフ」の実践

目指す生徒像を「自信をもって、将来の夢や目標に向かえる生徒」として、岡山大学安藤美華

代教授が提唱されている心理

プログラム「サクセスフル・セルフ」を実践しました。「自己理解」「人間関係」「対処と解決」のテーマで、年間を通して行い、好ましい人間関係を構築するためのコミュニケーションの方法や具体的な場面での問題への対処の仕方を学習しました。

(2) 「授業5(ファイブ)」の導入

「岡山型学習指導のスタンダード」を取り入れた授業づくりを学校全体で行いました。全てのクラスに各教科の課題の予定を書くホワイトボードと「めあて」や「まとめ」の「授業5」のプレートを設置しました。どの教科にも通用する授業の型づくりを進めることで、生徒は授業に対して自信を持って取り組めるようになりました。

3 学力向上への取組

本校でも、家庭学習時間が全国平均を下回る現状がありました。そこで、「家庭学習のスタン

ダード」を活用した家庭学習指導の見直しを行いました。

(1) 自主学習のススメ

自主学習の記録が書き込める生活ノートを活用し、担任が自主学習の状況を把握しました。模範となるページは、優れている点や工夫している点等の解説を付けて校内掲示を行いました。生徒も保護者も興味をもって見ている姿が多く見られました。学期を通して自主学習を頑張った生徒には、本校独自の表彰である「かがやき賞」が与えられ、さらなる向上への原動力になっています。

(2) 家庭学習推進ポスター

生徒の目を引くアイデア溢れるポスターを校内に掲示し、生徒の意識改革を行いました。スポーツ選手・動物等、インパクトのあるポスターで畳み掛けるように生徒に語り掛けることで、「学校全体で学習する雰囲気づくり」を目指しました。



(3) 学力向上ダービー

家庭学習の時間を、1週間クラス単位で競わせました。自己申告した学習時間を毎日集計して、掲示しました。期間中には学習に関する放送を行い、全校でダービーに取り組む環境をつくりました。

(4) 保護者の意識改革

家庭学習の取組への協力をお願いする文書を配布したり、学年だよりや学年懇談会で話題にしたりしました。保護者からは、学校の取組のおかげで声掛けがしやすいという声がありました。

4 成果と課題

最近の調査では、全ての学年で家庭学習時間の大幅な増加が見られました。それに伴って、学力の向上も見られました。

これまで、生徒に自信ややる気をもたせる取組と飽きさせないしかけで、学習に対する意識改革を行ってきました。今後この取組を継続・発展させていくことで、質の高い学習を行う力を養い、これからの課題である読解力・記述力の向上を目指したいと思えます。

(教頭 安原 明美)